

いわて生協 無料お買い物バスの運行スタート

さまざまな配慮からコースを設定

2012年7月9日、いわて生協は沿岸被災地の住民と宮古市内の2店舗（マリンコープDORAとベルフ西町）を結ぶ「無料お買い物バス」の運行をスタートしました。

いわて生協は6月18日から移動販売車「にこちゃん号」も運行していますが、それだけでは対応できない仮設住宅が数多くあることから、無料で乗降できる「無料お買い物バス」をスタートしたのです。

コースは全部で9つ。宮古市内は4コースで、マリンコープDORA行きとベルフ西町行きが2コースずつ。週に2～3回運行します。山田町は5コースを設定し、週に1回の運行です。

これにより「にこちゃん号」では対応できない宮古市・山田町の仮設住宅64か所（2,078世帯）をカバーすることが可能になりました。さらに、仮設住宅だけでなく、その周辺の住民も利用できるように、コースを設定し停留所を設け、事前告知を行ないました。

いわて生協の常務理事・店舗事業管掌・阿部慎二さんは、「仮設住宅にお住まいの方々と、その周辺でもともと暮らしていた方々との間で、ふれあう時間があまりないと聞いています。ならば、いわて生協が運行するバスで隣り合わせに座ったり、行き先の店舗で一緒に買い物をするような時間があると、コミュニケーションが深まるのではないかと考えました」と話します。

「無料お買い物バス」の運行前の告知は、組合員と社会福祉協議会の方々に協力を仰ぎ、戸別にチラシを配布したほか、仮設住宅の掲示板やマリンコープDORA、ベルフ西町の店内にポスターを貼りました。

コース設定に当たってはもう1つ重要な配慮がなされています。沿岸部には少しずつ商店やスーパーマーケットが戻ってきているため、「無料お買い物バス」を走らせることで、復興途上にある店舗の経営を圧迫しないことです。宮古市が1週間で複数回運行するのに対し、山田町を週1回の運行としているのは、山田町の中心部に小規模な店舗が復活したためです。

全国の生協の緊急支援で実現

大勢の協力とさまざまな配慮のもとに運行した「無料お買い物バス」。スタートして3週間目の7月26日、実際に利用している方々の声を聞きに行きました。

木曜日はマリンコープDORA行きの2コースです。午前の「関口コース」は14人、午後の「山田東小コース」は17人が利用しました。買い物を終えてバスに戻ってきた皆さんに「無料お買い



マリンコープ DORA に到着した「無料お買い物バス」。

物バス」の運行をどう思っているか訊ねたところ、「車を持っていないから、本当に助かります」という好意的な意見ばかりでした。

自動車がない、あるいは、運転できない方は、親戚に頼ったりタクシーを使って買い物をすることが多かったそうです。「タクシーで毎週は来られないし、路線バスは不便だしね」という声もありました。「山田町からはバスでも片道700～800円かかります。往復すると1,500～1,600円。個人の負担は大きいでしょうね」(阿部さん)。

バスが到着してから出発するまでの買い物時間は、マリンコープDORAは70分間、ベルフ西町は50分間ですが、「滞在時間は短くないですよ。ちょうどいいです」「これ以上長いと、もっと買っちゃいそうだから!」という声が返ってきました。

買い物の目的はさまざまです。「もうすぐ孫たちが帰ってくるので」とうれしそうに話すある組合員は、関東から来るお孫さんたちのための準備で買い物に来ました。そのほか、「近所の店では置いていないものを買いに来ました」という方も多くいらっしゃいました。マリンコープDORAには、化粧品や靴、バッグなどがあるので、地元のお店にないもの、品数が少ないものをここで購入したそうです。

山田町でこ～ぷ委員を務め、事前告知にも協力した鈴木協子さんは、友人を誘って「無料お買い物バス」を初めて利用したといいます。鈴木さんは「たくさんの人たちが利用しているのを見て、よかったなと思いました。仮設住宅にお住まいの方々のお役に立つことがあれば、これからもお伝えしていきたいです」と話してくれました。

「無料お買い物バス」の運行は2013年3月末までを予定しています。4月以降の運行をどうするかは、利用状況を見て判断するそうです。3月末までの運行に関する費用1,000万円は日本生協連が全額負担しました。

阿部さんは「東日本大震災以降、生協が持つ大きな力を実感しています。緊急支援はもちろんのこと、復興支援として『にこちゃん号』と『無料お買い物バス』を続けてスタートできたのは、全国の生協と職員、組合員さんの助けがあったからこそ。生協という組織は本当に心強いですね」と語っています。



利用者の方はゆっくりと買い物を楽しんだ。